

学部 / 看護専門領域 / 看護の基本

科目コード : 140001

臨床推論・臨床判断演習 Clinical reasoning / Clinical judgment Exercise

担当教員	寺井梨恵子、南條裕子、岩佐和夫、石川倫子、田村幸恵、瀬戸清華、中嶋知世、千田明日香				
実務経験	担当教員全員に臨床経験がある。				
開講年次	2年次後期	単位数	1	授業形態	演習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	臨床推論、臨床判断、シミュレーション				
学習目的・目標	<p>【学習目的】 看護師が患者の身体状況を的確に把握するために、臨床推論を行い、緊急度や重症度を判断し、患者の状態にあった的確な看護ケアを提供できる力を養う。この過程で、臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を身につける。</p> <p>【学習目標】 1. 臨床判断と臨床推論とは何かを理解し、その関係を理解できる。 2. 臨床現場で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断過程を思考できる。 3. 臨床現場で遭遇しやすい症状の事例展開を通して、臨床推論ができる。</p>				
授業計画・内容					
回	内容				
1	1. 臨床判断 1) 臨床判断とは 2) 臨床判断の構成概念 3) 臨床判断のプロセス 4) 看護過程と臨床判断の関連				
2～4	2. 臨床判断の実際 1) 臨床判断の思考過程「気づき」「解釈する」「反応する」「リフレクション」を臨床現場で遭遇しやすい事例で体験する				
5	3. 臨床推論 1) 臨床推論とは 2) 臨床推論の方法				
6～8	4. 臨床看護場面で遭遇する症状における臨床推論の実際 1) 発熱のある患者 2) 腹痛のある患者 3) 呼吸に異常のある患者 など				
9～15	5. シナリオシミュレーション演習 1) 腹痛・咳嗽・発熱を主訴とした3事例 (1) シナリオ作り (2) シナリオ練習と修正 2) シナリオの発表(演示) 3) ピア評価				
教科書					
参考図書等	三浦友里子、奥裕美著：臨床判断ティーチングメソッド、医学書院				
評価指標	筆記試験(40%)、課題(40%)、グループ貢献度(20%)で評価する。				
関連科目	解剖生理学、解剖生理学実習、人間病態学・演習、疾病・障害論、フィジカルアセスメント、看護過程論、基礎看護学実習Ⅱ				
教員から学生へのメッセージ	臨床看護師の思考のように患者さんを見て気づき、解釈する。その上で実施し、自らの実践を振り返る。このような思考を一緒に身につけていきましょう。				